

週刊 循環経済新聞

The Recycling Economy Times

ウシヨリ 新たに大型ドラム チップパーを導入

作業時間半減、前処理なしの強力破碎

モリシヨウ(大分県日田市、森山和浩社長)は、グループ会社の日本フォレスト・天瀬工場(同)に、国内最大級の大型自走式ドラムチップパー「LB-4036」を導入した。同グループのグリーン発電大分が運営する「天瀬発電所」向けに燃料用の切削チップを生産。従来設備を「LB-4036」に更新することによって生産能力を2倍以上に高め、1日掛かっていた作業を半日に短縮し、大幅な省力化を実現した。

天瀬発電所の発電出力は5700キロワットで、

未利用材由来のチップを日量約220ト活用している。従来設備(中型ドラムチップパー)の生産能力は1時間当たり30トだったが、新設備の能力は60〜80トに上る。最大処理径は610ミリまで対応。765馬力と強力な性能を持ち、大径木やタンコロなど、前処理が必要だった材料を直接投入できる。

各装置の作動状況を監視・制御するシステムを搭載。生産性とエンジン効率を最大限に発揮できることも大きな特徴とした。天瀬工場の担当者は、「午後

ダアイヨン(大阪市)を輸入元に、同社と共同で「LB(ログバスター)シリーズ」を日本国内向けに販売しており、今後は新設備を加えた5機種(小型〜大型)のラインアップをそろえる。また、国内12カ所以上の窓口でアフターサポートを受付可能な体制を整えている。(関連記事5面)



天瀬工場に導入した「LB-4036」

の時間を保守管理業務に充てることや、1日中稼働させて次の日は休みにするなどでき、効率化や働き方改革につながられる」と話した。

日本フォレストは、オカ